

# りそな外為レポート

## りそな WEEKLY COLUMN

### りそな外為レポート

#### 脇役のドル円 (P2)

りそな銀行 市場トレーディング室  
カスタマーディーラー 田中 春菜

今週のドル円予想レンジ **103.00 ~ 104.50**

### りそなWEEKLY COLUMN

#### 「令和」と万葉集と来年のお花見 (P3)

総合資金部 市場トレーディング室  
カスタマーディーラー 小林 翔太郎

- 元号「令和」の典拠「万葉集」とは？
- お花見事情の今と昔
- 鬼が笑うとは言うものの…

2020/12/7

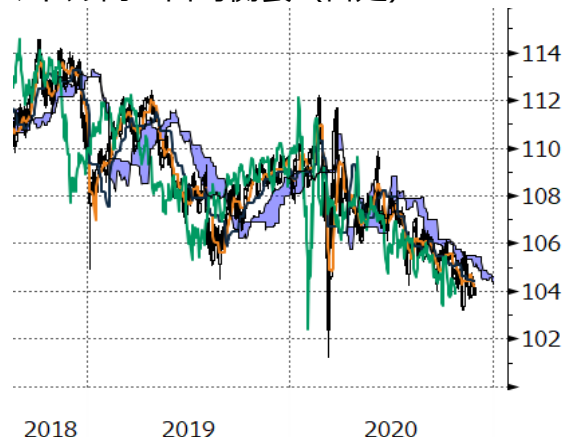
# りそな外為レポート

## 脇役のドル円

今週のドル円予想レンジ **103.00 ~ 104.50**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

### ◆ドル円一目均衡表（日足）



### ◆為替相場のすすめ

先週は月末・月初を跨ぎ、新型コロナワクチンの早期実用期待等を受け欧米株は堅調に推移。グローバルなリスク選好ムードから為替はドル売り他通貨買いが進行、中でもユーロの上昇が際立った。ドル円は週半ばに全般的なドル売り圧力に連れられ一時103円68銭まで下落するも、金曜日に発表された米11月雇用統計において、非農業部門就業者数が市場予想を下回り追加財政期待が高まったことから米長期金利が上昇し、ドル円も104円前半まで反発した。

今週のドル円は引き続き緩やかな円高トレンドの継続を予想する。米金利の動向を見極めながら、引き続きリスク選好ムードが継続すると、ドル安圧力は続くと思われる、ドル円はドル安円高となろう。また今週10日にECB理事会が予定されているが、足元ユーロが著しい上昇を続けている事から、ユーロ高をけん制する可能性もあり、イベント前後の動きには注意したい。

(カスタマーディーラー 田中春菜)

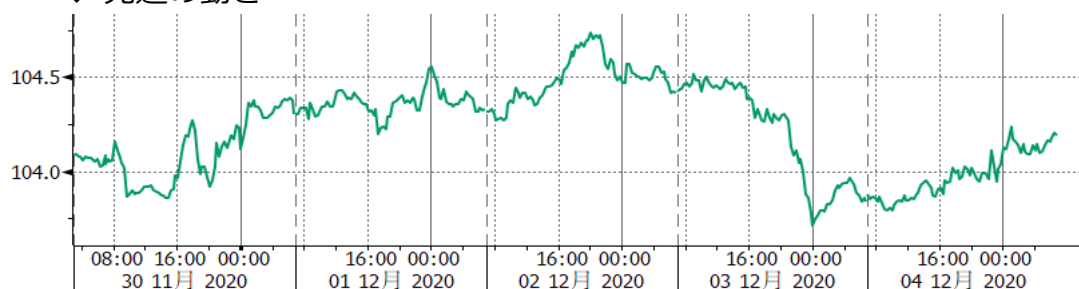
### ◆今週の日程

7日(月) 中 11月貿易統計	9日(水) 米 10年債入札
8日(火) 日 11月景気ウォッチャー調査	10日(木) 欧 ECB理事会
8日(火) 日 20/3Q GDP二次速報	10日(木) 米 30年債入札
8日(火) 米 3年債入札	10日(木) 米 11月CPI
9日(水) 日 10月機械受注	11日(金) 米 12月ミシガン大消費者信頼感指数

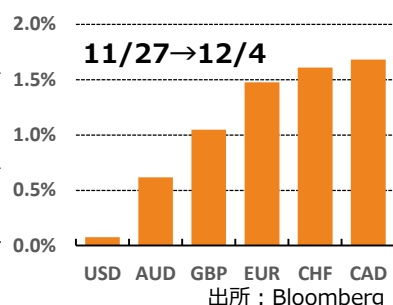
### ◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 12月4日(金) 104.17円 VS 12月11日(金)

東京								大阪			埼玉						
井口	中根	石川	湊	小新	鳥井	田中	中里	伊藤	村永	小林	鈴木	武富	上野	小林	津田	石井	佐藤
↑	休	↓	↓	↓	↑	↓	休	↑	↑	↓	↓	↓	↑	↑	↑	休	↓

### ◆先週の動き



### 主要通貨対円パフォーマンス



◎注意事項  
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2020/12/7

# りそな WEEKLY COLUMN

## 「令和」と万葉集と来年のお花見

- 元号「令和」の典拠「万葉集」とは？
- お花見事情の今と昔
- 鬼が笑うとは言うものの…

総合資金部 市場トレーディング室  
カスタマーディーラー 小林 翔太郎

### 今年の大ニュース といえば…

今年も早いもので、もう12月です。そろそろ、令和2年も終わろうとしています。読者の皆様は、今年の大ニュースと言われたら何が思い浮かぶでしょうか？ やはり、新型コロナウイルスの感染拡大に関する事柄が第一に思い浮かびそうですが、いっぽうで、今年8月に安部首相が突如として辞意を表明し、歴代最長を記録していた政権が突然の幕引きとなったことを、大ニュースとして思い出す方も多いのではないのでしょうか。安倍総理退陣後は、自民党総裁選挙で勝利した菅氏が第99代内閣総理大臣となりました。菅氏といえば、官房長官として新元号「令和」を発表し、一部で「令和おじさん」という愛称で呼ばれていたのも、記憶に新しいところです。本稿では、令和3年を迎える前に、元号「令和」の話をしていきたいと思います。

### 日本最古の歌集 「万葉集」とは？

元号「令和」が発表された当時（2019年4月1日昼ごろ）、新元号が万葉集を典拠としたことが、ちょっとした話題になりました。これまでの元号が中国の古典を典拠としていたのに対して、初めて日本の古典を典拠とするということで、関心を集めたのです。元号が発表された日、大学時代に私が日本文学専攻だったことを知っていた会社の先輩に、「『令和』って万葉集から取られてるらしいけど、知ってる？」と聞かれて、「『令和』？ ちょっと、わかりません。すみません…」というやり取りをしたのを覚えています。

万葉集という歌集は、現存する日本の最古の和歌集で、全20巻4,500首以上の和歌が収められています。成立は奈良時代後期とされ、大伴家持（おおとものやかもち）が編纂に携わったと言われています。様々な身分の人が詠んだ歌が収められている一方で、作者未詳の歌も多く、2,100首以上の歌の作者は誰なのか分かっていません。

万葉集が作られた時代には、まだ平仮名が発明されていなかったため、万葉集の文字はすべて漢字が使われています。平仮名はまだないのですが、これに類するものとして、万葉仮名という表記がなされています。

次頁に、実際に「令和」の典拠となっている部分を引用するので、どのような表現がされているのか見てみましょう。





# りそな WEEKLY COLUMN

## 典拠（漢文）

梅花歌卅二首<并序>

天平二年正月十三日 萃于帥老之宅 申宴会也 于時初春令月 氣淑風和  
梅披鏡前之粉 蘭薰珮後之香 加以 曙嶺移雲 松掛羅而傾蓋 夕岫結霧  
鳥封穀而迷林 庭舞新蝶 空歸故雁 於是蓋天坐地 促膝飛觴 忘言一室之裏  
開衿煙霞之外 淡然自放 快然自足 若非翰苑何以攄情 請紀落梅之篇  
古今夫何異矣 宜賦園梅聊成短詠

## 書き下し文

梅花の歌三十二首<并（あわ）せて序>

天平二年正月十三日に、帥老の宅（いえ）に萃（あつ）まりて、宴会を申（の）ぶ。時に、初春の令月（れいげつ）にして、氣淑（よ）く風和（やわら）ぐ。梅は鏡前の粉（ふん）を披（ひら）き、蘭（らん）は珮後（ばいご）の香（こう）を薰（かお）らす。加以（しかのみならず）、曙（あさけ）の嶺（みね）に雲移り、松は羅（うすもの）を掛けて蓋（きぬがさ）を傾く、夕（ゆうべ）の岫（くき）に霧結び、鳥は穀（うすもの）に封（と）ぢられて林に迷ふ。庭に新蝶（しんちょう）舞ひ、空には故雁（こがん）帰る。ここに天を蓋（きぬがさ）にし地（つち）を坐（しき）いにし、膝を促（ちかづ）け觴（さかづき）を飛ばす。言（こと）を一室の裏（うち）に忘れ、衿（ころものくび）を煙霞（えんか）の外に開く。淡然に自（みづか）ら放（ゆる）し、快然に自ら足りぬ。もし翰苑（かんえん）にあらずは、何を以てか情（こころ）を攄（の）べむ。請（ねが）はくは落梅（らくばい）の篇（へん）を紀（しる）せ、古（いにしえ）と今と夫（そ）れ何か異ならむ。園梅を賦（ふ）して、聊（いささ）かに短詠（たんえい）を成すべし。

## おおまかな意味

天平二年（西暦730年）一月十三日に、大宰府長官の家に集まって、宴会を開いた。おりしも時節は、初春のよい月で、気候もよく風はなごやかだ。梅は鏡の前のおしろいのように白く開いて、春の香草は匂い袋のようにいい匂いがする。それだけではない。夜明けの山のみねには雲が掛かり、松はうすぎぬのような雲をかけて、きぬがさを傾けているかのよう、夕暮れのみねには霧が掛かり、鳥は霧のうすぎぬに閉じ込められて林で迷う。庭には新しく生まれた蝶が舞い、空には古い去年来た雁が北へと帰って行く。ここに、天を屋根に、地を敷物にして、膝を近づけて、盃を交わす。一つの部屋の中において、言葉を交わさずとも気持ちが通じ、胸襟を霞の外まで開く。こだわりなく、くつろぎ、快く満ち足りる。詩歌でなければ、何によってこの気持ちを述べようものか。願わくは、落梅の詩篇を記せ、昔と今といった何が違うだろう。いや、何も違わない。この園の梅を題にして、ちょっと短歌を作ってみよう。

# りそな WEEKLY COLUMN

## 「令和」の意味

「令和」は、「初春の令月（れいげつ）にして、気淑（よ）く風和（やわら）ぐ。」の「令」と「和」を合わせた二文字です。「令月」は「いい月」の意味。（ここで言う月は、お月様の月ではなく、一月、二月…の月です。）お正月だからおめでたい月なのでしょう。「風和ぐ」の、「和」は「穏やか」という意味で、この二文字を合わせた「令和」という元号には、いい時代、平穏な時代であるようにとの意味が込められているのでしょうか。

## 宴会の主人 大伴旅人

ところで、この典拠の部分ですが、ご覧の通り五・七・五・七・七の和歌ではありません。この文は、梅の花について詠んだ和歌の前に付けられた序文に当たります。たかが序文とはいえ、比喩が多く、なかなか詩的な文章になっています。序文の冒頭で、「帥老の宅（いえ）に萃（あつ）まりて」とありますが、「帥老」というのは、「大宰府長官」の意味です。当時このポストにあったのは、大伴旅人（おおとものたびと）という人でした。万葉集編纂者の家持（やかもち）の父親です。大伴氏は名門貴族で、旅人は大伴氏の首長、天平二年に宴会を開いた時の旅人の位は正三位で、日本で屈指の偉い人でした。位が高い人が開いた宴会ですから、庭の梅もきっと豪華だったのでしょう。ちなみに、現代では花見と言うと、桜の花見を想像しがちですが、奈良時代の花といえば、桜より梅でした。紅梅はこの頃、まだ日本に伝わっていなかったもので、中国伝来の白梅がもっぱら貴族たちに愛好されていました。文中の梅がおもしろくに譬えられているのも、梅の花が白いためです。

和何則能尔 宇米能波奈知流 比佐可多能 阿米欲里由吉能 那何列久流加母 主人  
（わがそのに うめのはなちる ひさかたの あめよりゆきの ながれくるかも）

この和歌は、序文に続く和歌32首のなかの一首です。宴会の主人旅人の詠んだものです。この歌では、梅の花が散る様子を、天から降る雪に譬えています。いわゆる万葉仮名が使われています。漢字の音で、日本語を一音節ずつ表記しているのがお分かりいただけるでしょう。

## どうなる？ 来年の花見

「令和」の典拠となった万葉集では、正月に梅のお花見をしていましたが、現代人である私は花見というと、桜の花見のことを考えます。来年の花見の宴会はまた中止かと思う一方で、それまでにワクチンが普及していれば、自粛ムードが緩和される可能性もゼロではないかもしれないとも思っています。来年のことを言うと鬼が笑うとはよくいいますが、ワクチン開発の進展を報じるニュースが出て来ているなかで、来年の春にはワクチンが普及し、宴会自粛もなくなるというシナリオを空想してみるのも一興ではないでしょうか？